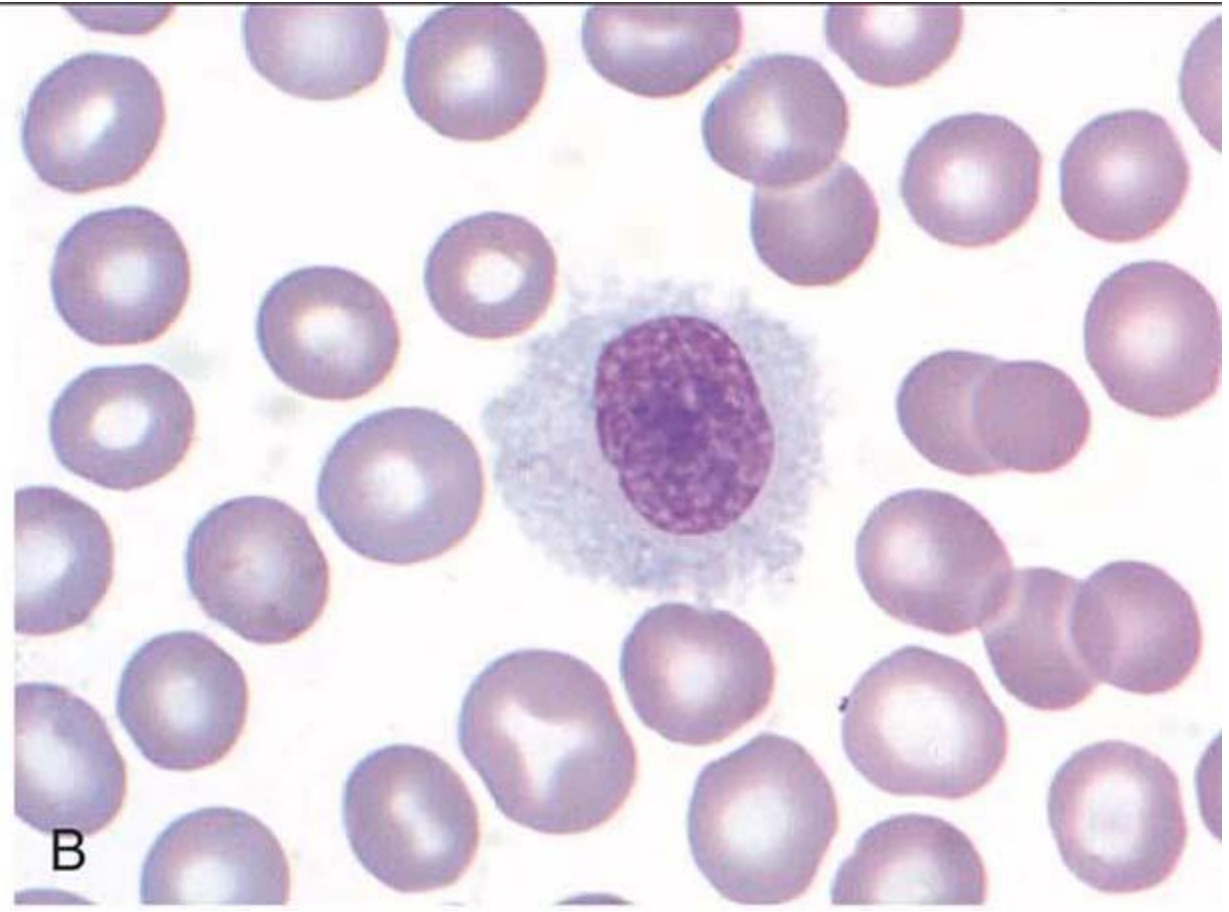
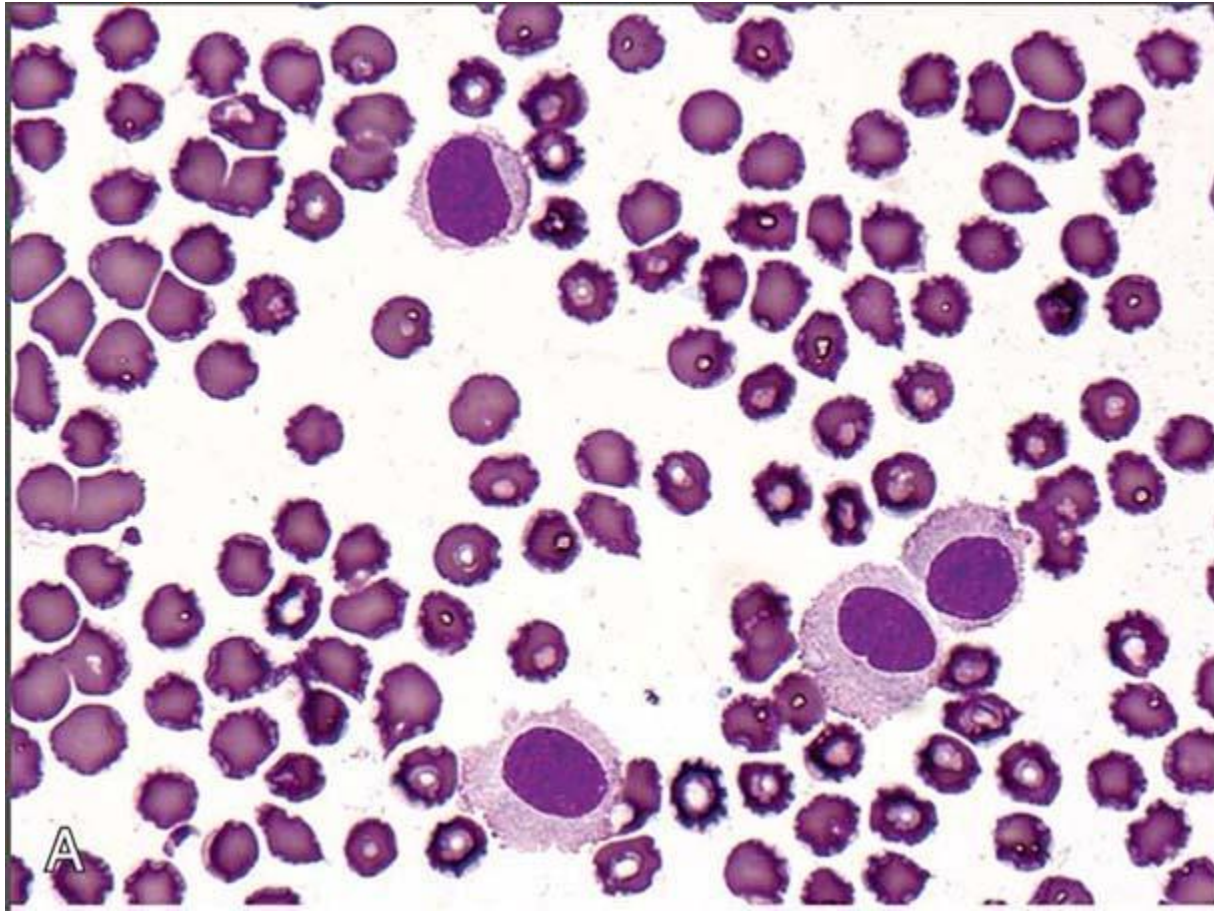
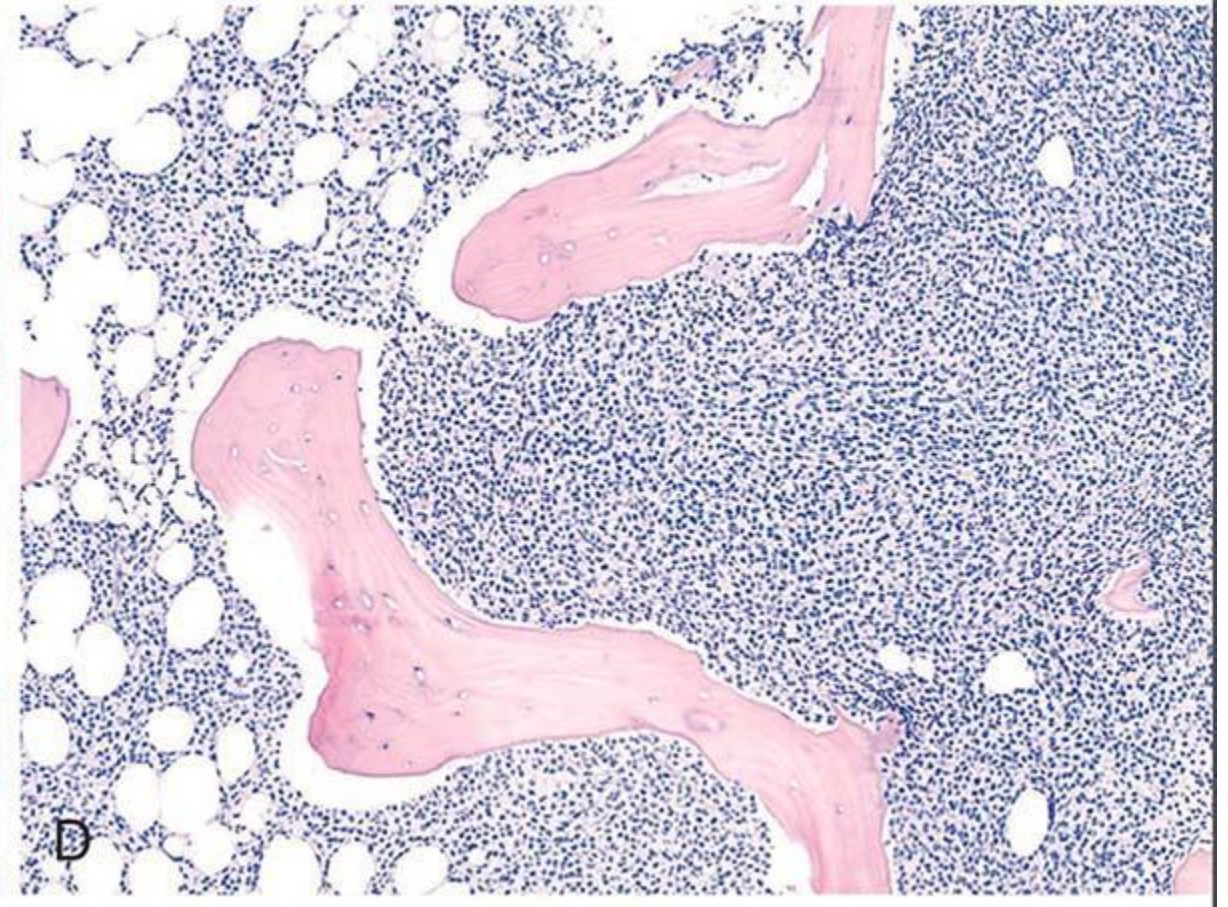
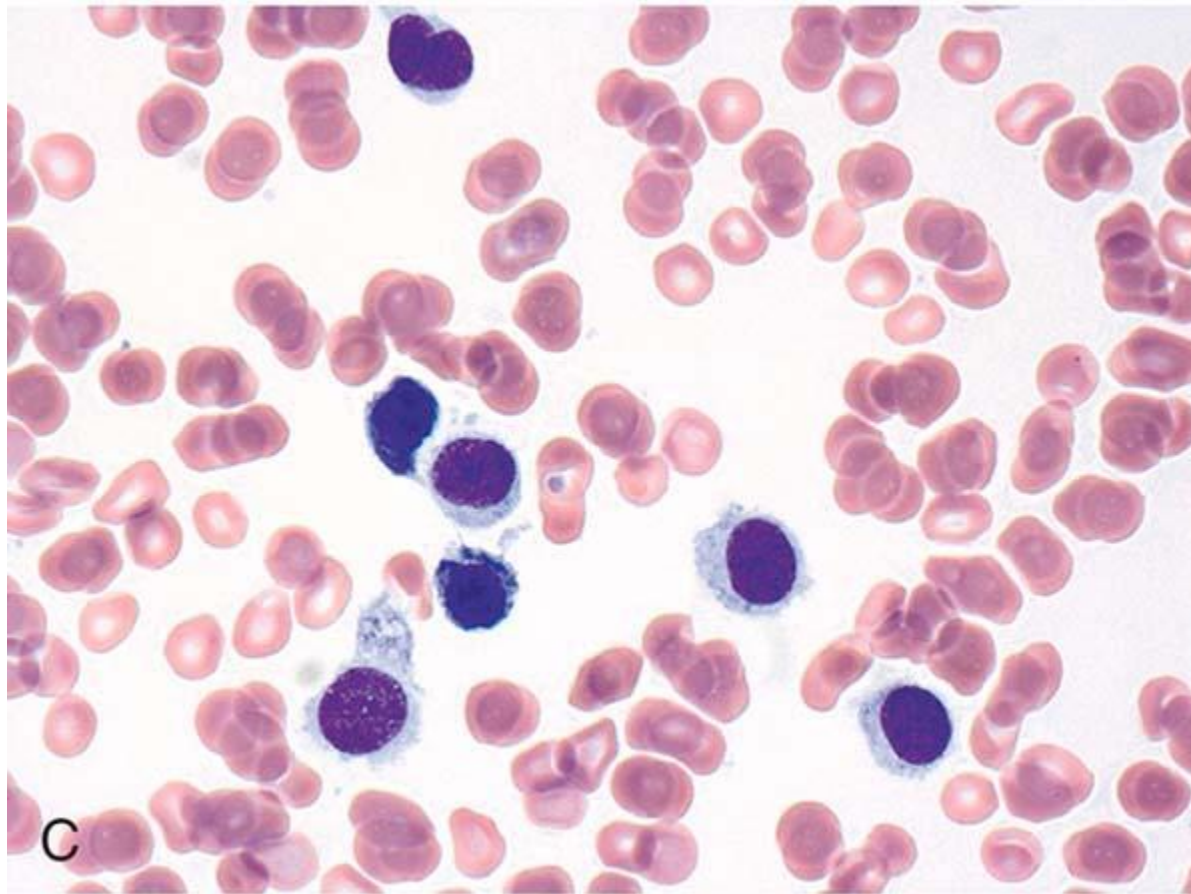




- A, 末梢血塗抹標本中の毛状細胞。核は楕円形から凹んだ形（腎臓形または豆形）で、染色質がやや散在し、細胞質は淡青色で、波打った境界に離散した毛状突起を示す。
- B, 末梢血塗抹標本中の毛状細胞。細胞質境界は不規則で、表面の突起が明瞭でない場合がある。小さな核小体が存在する場合がある。

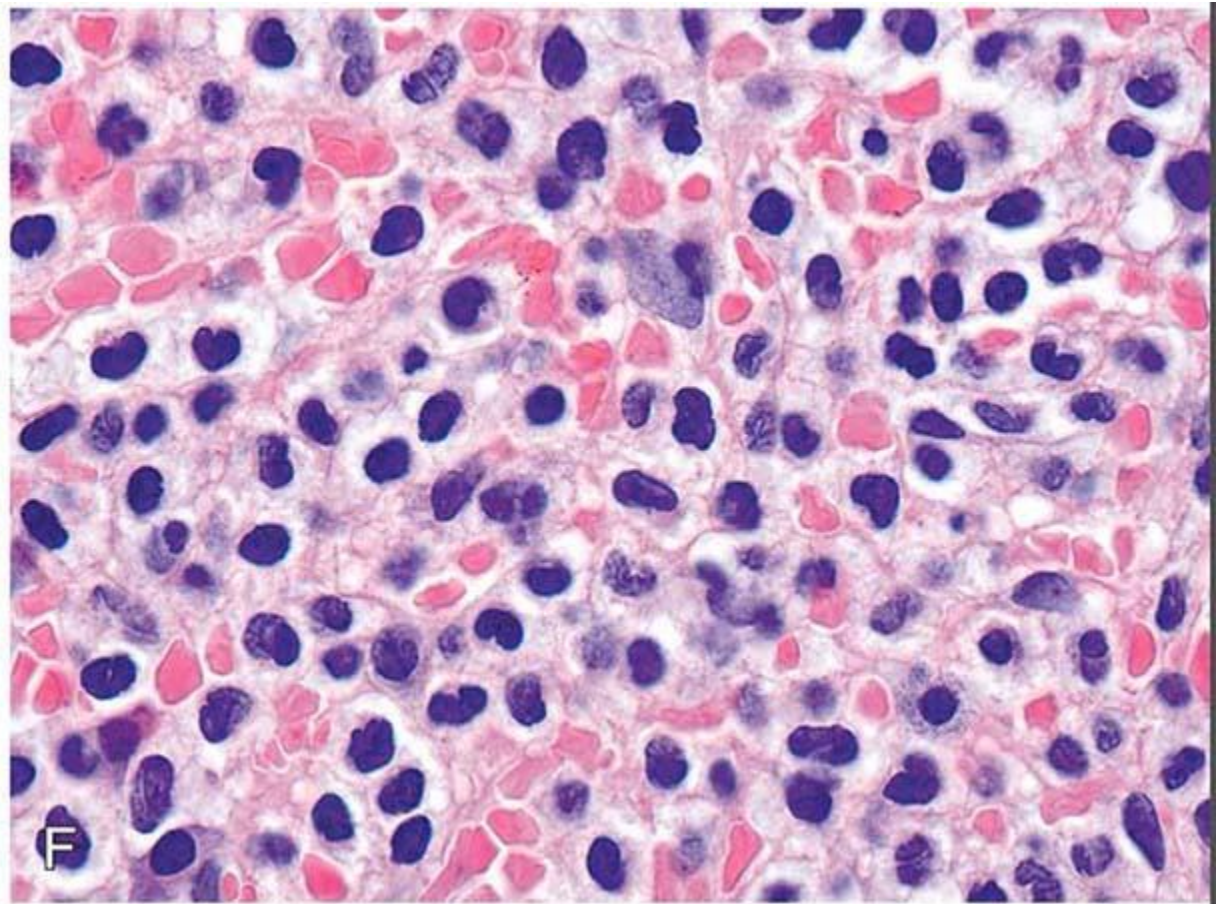
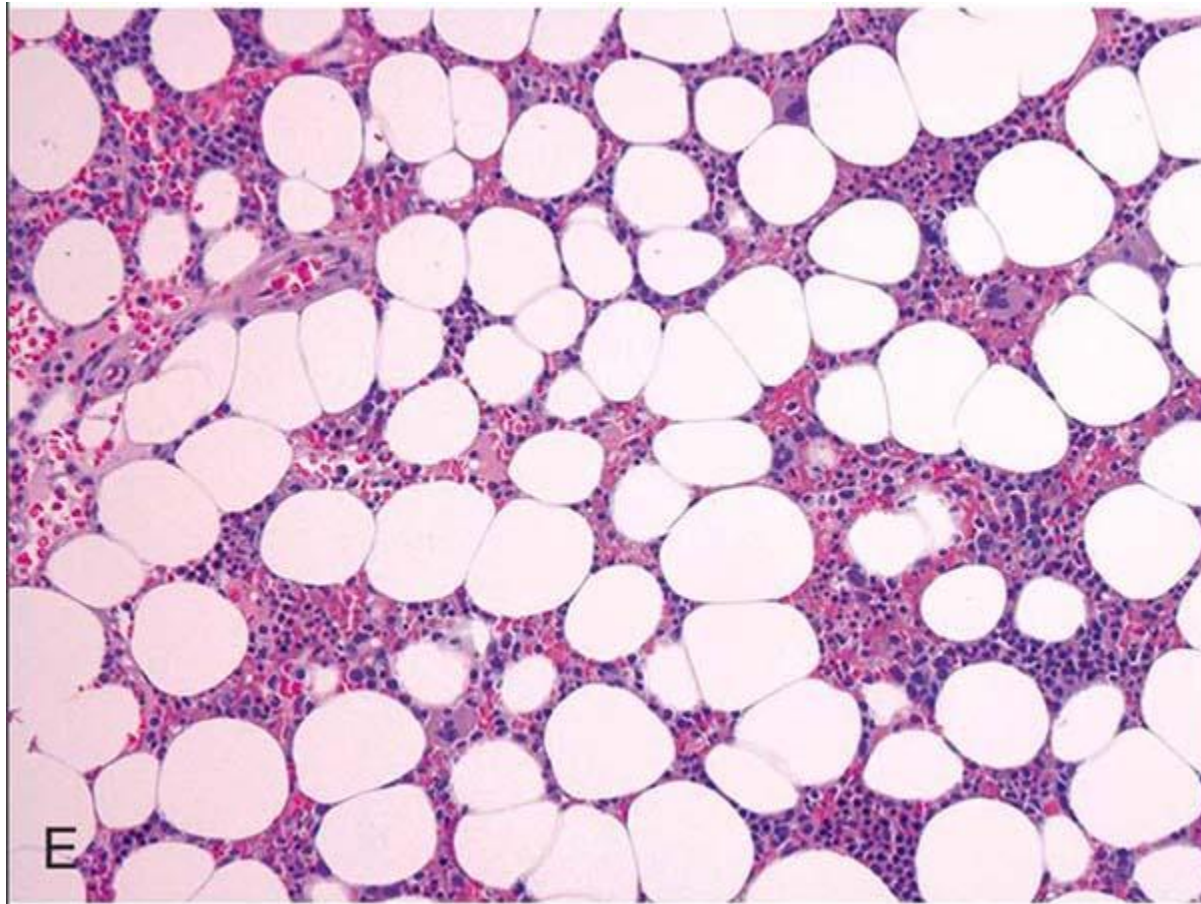




C、骨髓穿刺塗抹標本では毛状細胞は保存状態が悪く、細胞質が剥離または比較的少ない。

D、骨髓生検切片（低倍率）における毛状細胞白血病（HCL）、特徴的な拡散性および間質浸潤パターンを示す。

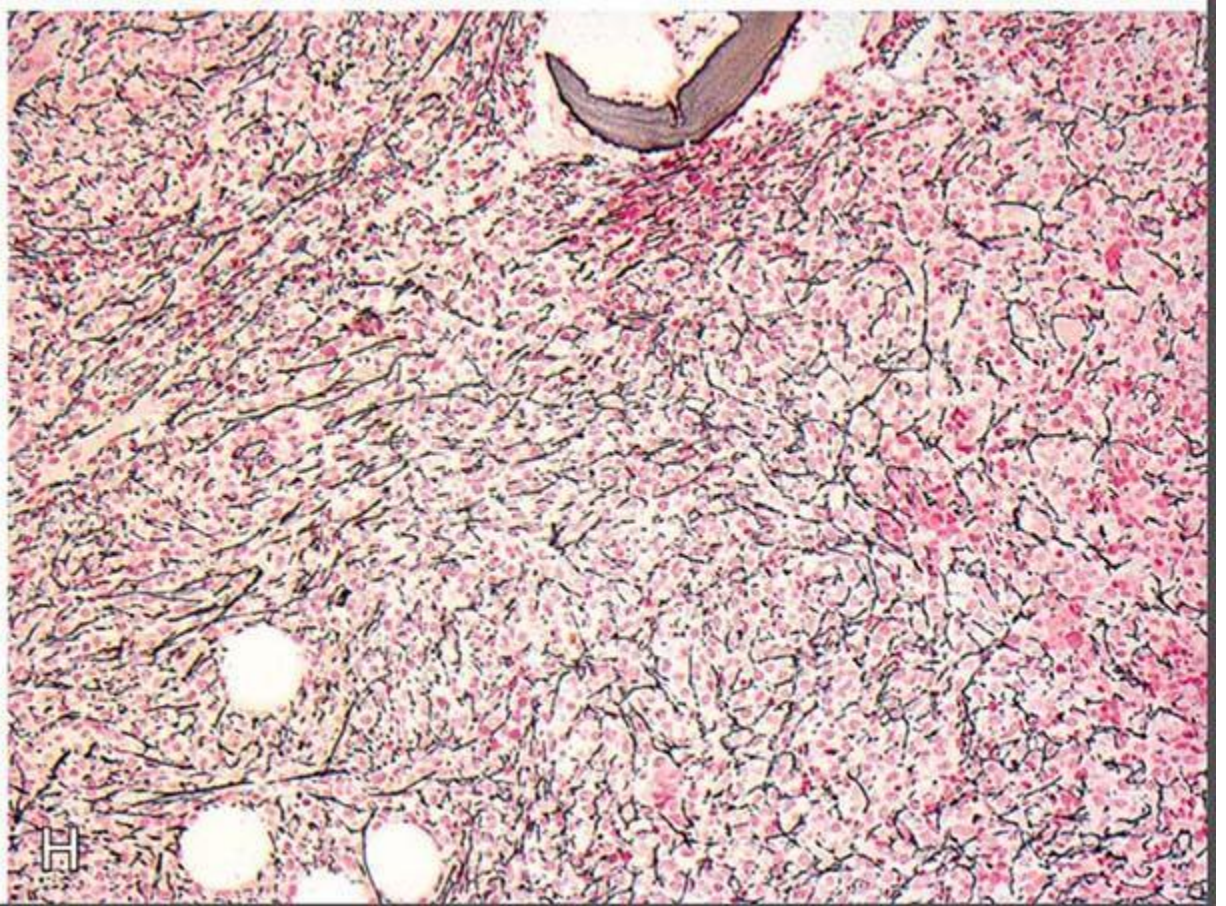
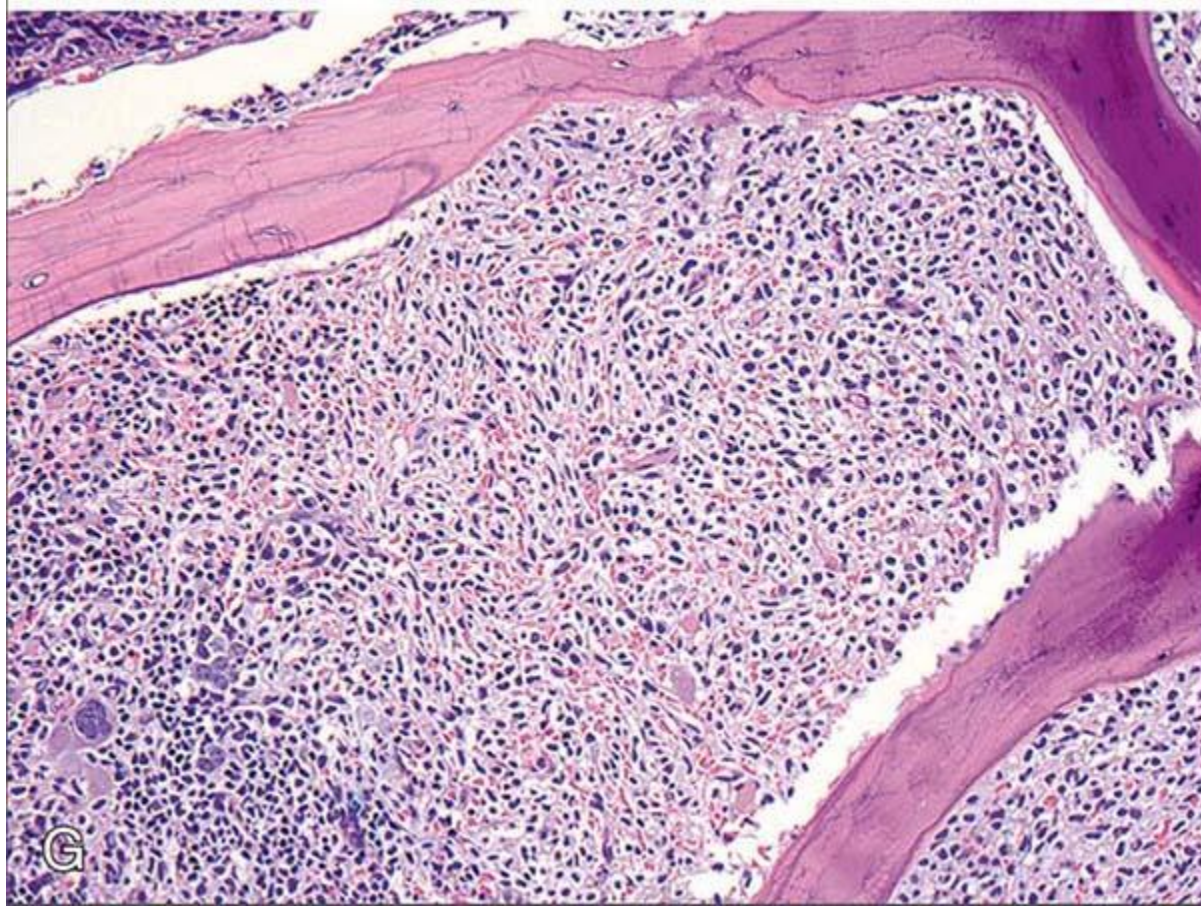




E、骨髄生検切片におけるHCLの早期の微小な浸潤例。造血要素の間を浸潤する毛状細胞は認識しにくく、容易に見逃される可能性がある。

F、骨髄生検標本（高倍率）におけるHCL。折り畳まれた豆形の核が広間隔に分布しています。固定法や処理方法によっては、細胞質が透明または淡ピンク色に見えることがあります。





G, 一部のHCL例では、骨髄の広範な浸潤により紡錘形を呈し、非血液腫瘍を模倣する可能性がある。

H, 骨髄生検（レチクリン銀染色）におけるHCL。レチクリンはほぼすべてのHCL症例で増加し、しばしばdry tapを引き起こす。